

2026 年度ゼミ（演習 2A／演習 2B）要覧

担当者名	熊倉 正修
演習テーマ	「働くこと」を考える
校外実習	①、実施しない 2、実施（実施時期： 年 月）
メール・アドレス	kumakura@k.meijigakuin.ac.jp
オフィス・アワー	随時（メールによる予約制）
2027 年度に開講しない可能性（研究サバティカル）	なし。
授業概要	この演習では、外国との比較を重視しつつ、 ① 日本の若者の就職やキャリア形成 ② 日本の企業や官公庁における組織運営の特徴 ③ それらの背後にある人々の価値観や社会制度について考察します。それらと並行して初步的なデータ分析に慣れ、四年次の卒業論文に備えます。
学習目標	① 日本と外国の働き方や組織運営の違い、その背後にある価値観や社会規範の違いを理解する ② それをもとに自分の卒業後の進路を主体的に考えることできるようになる ③ 卒業論文のテーマを主体的に考え、それに向けた準備ができるようになる
授業計画	① 特定の学問ではなく、複合的な視点からのアプローチを重視します。 ② 文化やコミュニケーションに関する問題も取り上げますが、データを用いた分析ができるようになることを重視します。 ③ 個人かグループで一定の分量のレポートを作成してもらいます。それを四年次の卒業論文に繋げます。
予習	そのつど指定します。
復習	そのつど指示します。
授業に関する注意事項	他の履修者との共同作業に積極的に取り組むこと。授業時間外の活動にも積極的に参加すること。
教科書	担当教員が作成した資料を多用します。
参考書	三土修平（2004）『ミニマムエッセンス・統計学』日本評論社など
成績評価の基準	発表・ディスカッションへの貢献度（30%）、レポート・課題（70%）
関連 URL	
認定留学期間中の遠隔指導	可 / 否 / その他（ ） ただし私の演習 1 を履修しなかった人の演習 2A からの遠隔指導には応じません。
備考	私の演習 1 の履修者は会計や表計算ソフトウェアの基礎を学んでいます。演習 2A からの履修者には春休み中に自習して追いつくことを求めます。転ゼミを希望する人は時間の余裕を持って相談に来て下さい。